

氏名	田村佳士枝	部署	看護学科	職名	講師
研究分野	小児看護学				
学位	修士(看護学)				
学歴	1987年聖路加看護大学看護学部看護学科、2003年聖路加看護大学看護学部看護学科修士課程				
経歴	1991年千葉県立衛生短期大学第一看護学科助手、1996年千葉県立衛生短期大学第一看護学科講師、2003年聖路加看護大学看護学部看護学科助手、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師				
所属学会(役職)	日本小児看護学会、日本看護科学学会、日本小児保健協会、				

【2016年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
2					
3					
(2) 論文					
1	小児医療施設におけるオレムセルフケア不足理論の看護過程への活用状況	共著	日本小児看護学会誌、25(3)、17-23	櫻井育穂、勝本祥子、添田啓子、西脇由枝、田村佳士枝、望月浩江、松本宗賢、株崎雅子、近藤美和子、久保良子、黒田京子	日本小児看護学会 2016
2					
3					
(3) 学会発表					
1	オレムセルフケア理論を取り入れた実践を促進する看護記録監査表の作成	共著	日本小児看護学会第26回学術集会 別府市	櫻井育穂、田村佳士枝、望月浩江、添田啓子、西脇由枝、松本宗賢、勝本祥子、岡崎智美、株崎雅子、近藤美和子、長場美紀、久保良子、黒田京子	
2	オレムセルフケア理論を取り入れた実践を促進する教育介入の効果 リフレクションから捉えた看護実践の変化	共著	日本小児看護学会第26回学術集会 別府市	添田啓子、望月浩江、松本宗賢、田村佳士枝、櫻井育穂、西脇由枝、勝本祥子、黒田京子、久保良子、株崎雅子、近藤美和子、岡崎智美	
3	オレムセルフケア理論を取り入れた事例検討会の成果 事例検討内容と参加者の認識の変化から	共著	日本小児看護学会第26回学術集会 別府市	近藤美和子、株崎雅子、岡崎智美、久保良子、黒田京子、添田啓子、田村佳士枝、西脇由枝、櫻井育穂、望月浩江、松本宗賢、勝本祥子	
(4) その他					
1	該当なし				
2					
3					
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	骨延長術を受けることを意思決定した子どもの看護援助			2015.4~2018.3
2					

3			
3. 教育業績			
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
(1) 講義			
1	小児看護学Ⅰ	2017.2	子どもの成長発達、生活、年代特有の健康課題から、小児看護の体調像を理解し、子どもの力を育て、よりよい健康に向けて生活を整えるために子どもに必要な看護を学ぶ。学童期の特徴と看護を担当し、調査結果を活用して、現状の理解を進めた。
2	小児看護学Ⅱ	2017.1	健康問題により治療やケアを必要とするさまざまな健康状況にある乳児から思春期までの子どもと家族の対象特性、身体、生活状況を理解するため、基本的な知識や理論を学ぶ。手術を受ける子どもと家族の看護、先天性疾患をもつ子どもと家族の看護を担当した。事例提示や動画を用いることで、具体的なイメージが図れるように工夫して実施した。
3	小児看護学Ⅲ	2017.1	学内実習を伴うPBLチュートリアルの学習方法を用いて、健康な生活状況から疾病により外来受診、緊急入院した乳児とその家族事例の全体像作成の過程により事例を統合的に理解し、小児看護に必要な知識と思考過程を修得する。事前学習ノートを活用できるよう促し、学生間で学んだことを共有が図れるよう支援した。
4	小児看護学Ⅳ	2016.4～7	身体機能の未熟性により、乳児が急性感染症に罹患した事例を用い、看護に必要な知識、看護過程、看護技術を学び修得することを目標としている。事例をイメージしながら、子どもや家族の状況に合わせた看護について学ぶ。技術確認練習では、個々の気づきをもとに、対象にあった方法の検討を支援した。
(2) 演習			
1	IPW演習	2016.10～2017.1	多学科混成チームで取り組みIPW演習は、保健医療福祉、教育の多職種による模擬課題や事例を素材として、利用者を尊重した問題解決のプロセスを通じ、連携で重要な葛藤や合意形成などIPWに求められる能力を体験的に修得する。1クラスを担当し、毎回のリフレクションの特徴をスライドで、提示し、グループ間の共有を図りながら、連携を意識できるよう工夫した。
2			
3			
(3) 実習			
1	小児看護学実習	2016.8～11	小児看護の目的を目指して小児看護を実践することを通して、子どもの対象特性を理解し、小児看護に必要な知識・技術・態度を修得する。周手術期の子どもが入院している病棟において、看護の必要性を考え実践できるように支援した。特に、個別の情報を得て計画に反映できるよう指導者と協力して実施した。
2	IPW実習	2016.1	利用者中心の統合されたケアを創造するために、専門職連携実践の方法を身につけることを目的に、施設FAと連携して、実践活動の調整を行った。特に、チーム形成が図れるよう、個々の学生の主体性を引き出せるよう、関わり方に配慮して行った。
3			
(4) 論文指導			
1	卒業研究	2016.4～2017.1	看護学科4年次生4名を担当し、計画書作成、倫理委員会申請、データ収集、分析、論文作成、発表資料作成の一連を指導した。学生個々の関心あるテーマに沿って、主体的に進められるように支援した。
2			
3			
(5) その他			
1			
2			
3			
4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会等の講師			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ 開催年月
1	専門職講座 臨床家のための看護研究セミナー	埼玉県立大学看護学科研究グループ	文献検討:看護研究のクリティーク 2016.6
2			
3			

(2) 国、自治体、財団法人等における委員等			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	該当なし		
2			
3			
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
2			
3			
5. 学内運営(委員会委員)			
1	該当なし		
2			
3			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		